

## 世界ジオパークネットワークへの加盟推薦地域決定

平成 26 年 8 月 28 日  
日本ジオパーク委員会

- 今年、世界ジオパークネットワーク（GGN）への新規加盟を推薦する地域として以下の地域を認定した。
  1. アポイ岳
  2. 伊豆半島
- アポイ岳ジオパークと伊豆半島ジオパーク今年 4 月に世界ジオパーク加盟推薦地域の公募に応募した。書類審査、公開プレゼンテーションと質疑応答、現地審査に基づき、本日の日本ジオパーク委員会により推薦が決定した。
- アポイ岳ジオパークと伊豆半島ジオパークは、本年 12 月 1 日までに世界ジオパークネットワークに加盟申請する。

### ■ 新たに世界ジオパーク加盟候補に推薦された地域の特徴 ■

#### アポイ岳

地下数十キロにあるマントルの岩石、カンラン岩が地表で見られる世界でも数少ない地域の一つであり、カンラン岩特有の高山植物が分布する地域でもある。ビジターセンターの整備等の受け入れ態勢の拡充、アポイ岳調査研究支援センター、アポイ岳地質研究所（ジオラボ）活動などの研究支援事業の推進など、日本ジオパークとして 6 年間で活動の充実が認められる。申請までにカンラン岩の保全保護と利用に関して世界ジオパークとしてふさわしい方針を確立することを条件に、世界ジオパーク国内候補地として推薦することとした。

#### 伊豆半島（静岡県）

伊豆半島地域の北上および本州への衝突の過程を、海底火山や陸上の火山群、南方系生物化石など多様な 114 箇所のジオサイトから知ることができる。地域住民や学校が主体的に保全活動や地域のジオを生かした商品開発・教育活動を行っていること、高いレベルにあるジオガイド、研究者による充実した学術的サポートなど高いレベルのジオパーク活動が展開されている。以上のことを総合的に判断し、ジオパークとしての一体感の醸成、および世界へ向けた伊豆半島ジオパークの貢献を明確にすることを条件に推薦することとした。

以上

## 日本ジオパークネットワーク新規加盟地域決定

平成 26 年 8 月 28 日  
日本ジオパーク委員会

- 日本ジオパーク委員会は、以下の地域を新たに日本ジオパークに認定した。  
立山黒部、南紀熊野、天草
- 3月に日本ジオパーク認定希望地域を公募したところ6地域から応募があり、書類審査、プレゼンテーションと質疑応答、現地審査を経て本日の第21回委員会で、上記3地域を認定した。
- これにより日本ジオパークは36地域となった。なお、天草ジオパークは隣接する天草御所浦ジオパークと合併を予定しており、両ジオパークが合併すると日本ジオパークの数は35地域となる。

### ■ 新たに日本ジオパークに認定された地域の特徴 ■

#### 立山黒部（富山県）

北アルプスから富山湾にいたる山・雪・川・扇状地・海を結ぶ壮大な水循環を学ぶことができるジオパークである。氷河、ライチョウ、高山植物、立山信仰、砂防・治水、電源開発の歴史、湧水群など特徴ある人々の自然と暮らしの関係が息づいている。民間主導型のジオパークの新たな運営モデルになる可能性がある。以上のことから日本ジオパークに認定するものとする。

#### 南紀熊野（和歌山県）

プレートの沈み込みに伴って生じた地層群を貫くマグマの活動や、巨大地震と津波が造りだした独特の景観、そしてそこから生まれた熊野信仰等、数多くの優れた地域の自然・文化遺産が体感できる。ジオパークの活用に熱意を持った地域住民や、50名以上のジオガイドの解説を聴くと、自然、大地の成り立ち、災害、そして世界遺産にもなっている地域文化と人々との強い関わりに気付くことができる。以上のことから日本ジオパークに認定するものとする。

#### 天草（熊本県）

有明海の大小120余りの島々に、白亜紀～古第三紀の化石を含む地層と、それが侵食を受けてできた地形が見られる。化石、石炭や陶石など、石を利用した文化や景観等がある。また、化石採集体験、クルージングによる地質探訪、グラスボートでの海中観察

など、天草ならではのジオツアーを楽しめる。マネジメント体制やガイド養成システムも整いつつあることから、日本ジオパークネットワークのメンバーにふさわしいと認め、認定する。

## ■ 日本ジオパーク認定を保留した地域の特徴と理由 ■

### 苗場山麓（新潟県・長野県）

大規模に発達した河岸段丘の上には、沖ノ原遺跡などをはじめとする縄文遺跡がいくつも存在し、火焰型土器などの特徴的な土器類の発見が多い。また、秘境とも称されるような谷深い場所の文化を色濃く残している地域である。谷深い地形や、湧水、風穴などこの地の暮らしは、苗場山や鳥甲山の溶岩の影響を受けており、河岸段丘と共に地質・地形とのつながりが強く感じられる。地域内でのジオパークとしての取り組みが活発に行われつつある。考古学と地形・地質を融合させたテーマ・ストーリーの構築が不可欠である。ジオパークとしての具体的な活動及び整備を保証する明確な計画書の提出まで保留とする。

## ■ 日本ジオパーク認定を見送りとした地域の特徴と理由 ■

### 下北半島（青森県）

本地域には、地球科学的に価値のある地層や地形、過去の環境変動の痕跡が多数ある。また、ヒバ林を含む森林生態系や津軽海峡や陸奥湾の海域の生態系など豊かな自然環境に恵まれ、それらに支えられた地域の暮らしがある。このようにジオパークの活動を進める上での素材は十分にある。しかし、地域の地球科学的遺産の認識、理解と保全、ジオパークの名称・テーマなどについて不十分な点が見られ、ジオパークとして活動する準備が整っていない。

一方で、ガイド養成講座などを通じた地元の地質・地形を理解の上に立ってこの地域のあり方について考え始めている住民もいる。こうした動きを活かしながら計画を練り直し、より多くの関係者・地域住民が一体となって推進するボトムアップな体制をつくり、再び日本ジオパークネットワークへの加盟申請を期待したい。現時点での日本ジオパークとしての認定は見送りとする。

### 筑波山地域（茨城県）

霞ヶ浦を含む筑波山地域全体の歴史的背景と地質資源、特産品など様々な魅力あるジオサイトが存在している。また、最先端の研究機関およびNPOなどを中心とした住民活動との連携を進めている。全体構想が不十分であるとともに、稼働中の採掘場をジオサイトとして選定するなど、地形・地質遺産の保全への認識不足もあり、現時点での日本ジオパークとしての認定は見送りとする。ジオサイトの選定見直しとサブテーマの見直し、ゾーニングによるジオストーリーの構築によって魅力あるジオパークとなる可能性が

大きいことから、課題を解決して再び日本ジオパークネットワークへの加盟申請を期待したい。

以上